

# やちご通信 やすらぎと笑顔の学校



北九州市立八尾中学校  
文責 校長 井津 弘

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	全体的に全国平均正答率を下回っていたが、読む力を問う問題の正答率はやや高く、読む力は身につけていると思われる。 書く力を問う問題に課題がある。
国語B	下回っている	どの領域も全国平均正答率を下回っており、特に書くことの領域の正答率がかなり低い。
数学A	下回っている	全ての領域で全国平均正答率を下回っており、特に、資料の活用を問う問題に課題がある。
数学B	下回っている	どの領域も全国平均正答率を下回っており、特に自然現象についての知識・理解が低く、科学的な思考・表現ができていない。

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

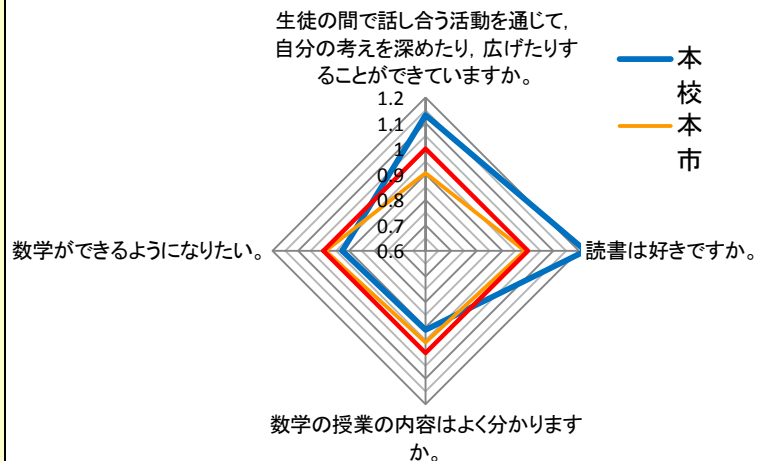
・本校生徒の読書好きは全国平均を大きく上回っており、読む力が身につけているのは、読書の影響が考えられ、朝読書の成果も一因であると思われる。

・授業中の規律は守られており、国語や数学の勉強は大切であるとする生徒が多い。

・授業において生徒の間で話し合う活動を行っているとは認識している生徒は多いが、自分の意見をきちんと書いて表現する力は身につけていない。

・数学の内容がわからなくて、できるようになりたいと思う生徒がやや少なく、向上心を持って学習に臨む態度にやや欠ける。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

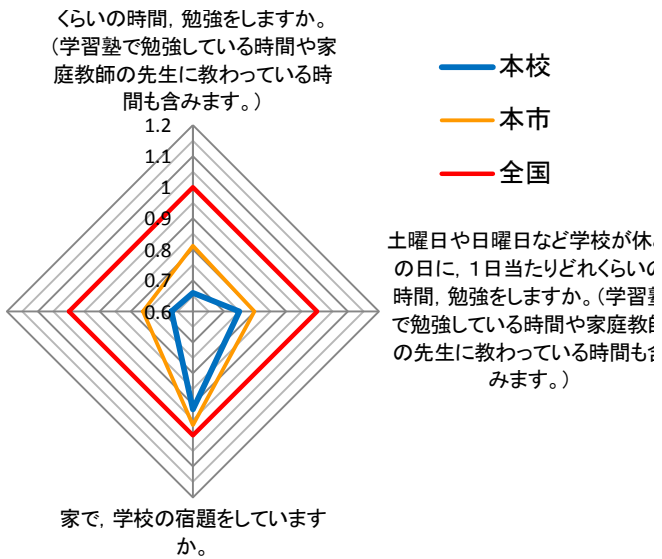


## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・家庭学習の習慣が身についておらず、宿題はおおむねするものの復習を全くしない生徒が4割いる。
- ・学習時間も、平日3時間以上する生徒が全国平均の約2倍以上いる反面、30分以下の生徒が学年の40.9%もいる。これは全国平均と大きく開きがあり、家庭学習の習慣づけが急務である。

家で、学校の授業の復習をしていますか。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・本校生徒は起床や就寝時間がほぼ決まっており、朝食を食べるなどの基本的な生活習慣がきちんと身についている生徒が多い。
- ・テレビの視聴や携帯電話・スマートフォンなどを長時間使用している生徒が多く、学習時間の確保ができない一因になっていると思われる。
- ・いじめは許さないという意識が高く、学級で協力してやり遂げる体験から達成感を味わっている生徒が多い。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- 朝読書の継続（毎朝15分間で全校一斉に実施）
- 授業での生徒間の話し合い活動において、自分の意見をきちんと書いて表現する場面を意識して取り入れる。
- 単元ごとにふりかえることができる学習プリントの活用。
- 英単語コンクールや漢字コンクールなどの実施により、学習意欲の喚起を図る。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
  - ・自学自習ノートを提出させ、点検を行う。
  - ・週末課題(英語)や毎日のミニドリルプリント(数学)など、教科の特性に合った宿題を継続していく。
  - ・定期考査前の学習計画を具体的に立てさせ、毎日の点検で実施しているかを確認する。
  - ・試験勉強時間のクラス合計値の目標を決め(例えば「めざせ150時間」など)、クラス対抗で学習時間を競わせることにより、学習に取り組むきっかけを作る。
  - ・冬休み、春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を、HPや学校だより、PTA理事会等で保護者に説明し、家庭と連携して協力体制を整える。